

(別紙5)

整理番号 2018P-159
補助事業名 平成30年度 福祉事業を行っている法人格を有さない団体に対して支援
を行うことを本来事業の目的とする活動 補助事業
補助事業者名 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

当財団は1970年障害児の父母団体の全国組織16団体が協力して設立した社会福祉法人で、障害児に対する福祉、医療、療育訓練、各種相談事業を行う外、障害児の父母団体との協力の下、障害を持つ者と健常者との共生社会を目指して幅広い広報・啓発活動の実施を目的としている。なお、定款では以下のように標榜している。「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されることを目的とする

(2) 実施内容

<http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/>

1. 全国心身障害児福祉財団

(1) 発達障害幼児に対する早期支援事業

発達障害幼児の早期発見・支援を行うため、専門家チームによる訪問支援活動を実施するとともに、保育士・教諭に対して専門性向上のための研修会を2地域（東京都・山口県）で実施するとともに発達障害に関わる「子育て支援情報誌」を作成し、関係機関に無料配布した。

園内研修会



訪問支援活動



子育て支援情報誌



(2) 自閉症スペクトラム障害児に対する療育指導と親・関係者への支援

対象児の年齢・発達段階・特性を考慮したプログラムを作成し年間34回（平均3回／月）の指導日を3期に分け、個別および小集団で目標を立てて実施。年度末に発達検査を実施し親への面談やアンケートを実施した。



(別紙5)

(3) ダウン症児に対する療育訓練

対象児の成長に合わせたプログラムを作成し、作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・臨床心理士による専門家により、療育訓練を行った。

また、家族に対しても対象児の療育訓練への参加を行いダウン症児の生活サポートを行った



(4) 超早期診断・療育及び親支援

発達障害専門医による身体面診察及び成育歴等の聴取を行い、心理士による検査及び観察を行った。その報告を基に専門医が発達障害と診断した児には心理士・言語聴覚士による頻度の高い療育を行った。親に関しては看護師による育児に関する助言や親に対する精神・医療的なケアを行った。



2. 全国難聴児を持つ親の会

(1) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(集団キャンプ)

難聴児教育に携わる専門家や指導員及び聴覚障害当事者による指導により同じ障害を持つ子どもたちの集団生活の経験や社会性の向上を図るため平成30年度より日帰り事業を新規に事業開始し、熊本県と埼玉県の2カ所で実施、一泊二日については奈良県と宮崎県の2カ所で実施した。

難聴児と保護者は別々のプログラムを組み、難聴児は集団生活の経験をし、保護者は、難聴児を持つ保護者同士の意見交換をし、聴覚に障害がある子の子育て等、先輩保護者からの意見を聞き知識などを得る事が出来た。また難聴スタッフからの聴覚補助具等の意見を聞き、今後の生活環境についての情報提供の場も与えた。



(2) 難聴児の親のための研修会

難聴児を持つ親を対象とし、聴覚障害に関わる専門家や成人した聴覚障害者当事者・聴覚障害者を育てた親による聴覚障害の正しい知識・理解を習得させ生活環境を整えるための研修会を全国3カ所(東京都・広島県・岩手県)にて計4回の

(別紙5)

研修会(東京都は2回)を実施した。



3. 全国聾学校PTA連合会

(1) 聴覚障害生徒スポーツ振興

ろうあ児の体力向上を通して意欲的な人間を育てるために、陸上競技大会10月12日～14日ウイック陸上競技場(兵庫県)、卓球大会11月2日～4日マエダアリーナ(青森県)の日程で実施した。



4. 全国盲学校PTA連合会

(1) 視覚障害生徒スポーツ振興

8月23日～24日に福岡県立スポーツ科学情報センター(福岡県)において全国8地区および開催地区から選ばれた8チームと、開催地区の1チームの計9チームにより2日間にわたり開催された。



5. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱特別支援学校に通う病弱虚弱児とその家族に対して国や地域における特別支援教育の動きや課題、各地区の保護者の活動等を内容とした指導誌を発行して配布した。

(別紙5)



(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針(1泊2日集団キャンプ)

病弱児とその家族に対し、病院とは違う環境の中での集団生活をし、将来の生活に役立つ実践的なスキル獲得のために一泊二日の集団キャンプを4カ所(山梨県(2カ所)・神奈川県・愛知県)で実施した。



(3) 社会復帰のための社会適応講座の開催

病弱特別支援学校生徒・OB・OG及び当該者の保護者・教師を対象とし校外学習・制作活動を中心に4カ所3回(福井県・東京都(2カ所)・茨城県)で実施した。



2 予想される事業実施効果

1. 全国心身障害児福祉財団

(1) 発達障害幼児に対する早期支援事業

専門家の指導・助言により、発達障害児の特性理解が深まり、教職員の専門性が園全体で向上する。教職員が自信を持って対応することで保護者との関わりも良好になり、地域の療育機関にスムーズに繋げることができるようになるため、園内での支援体制を地域機関と共有することができ、子どもに適した支援を地域全体で総括的に行うことができる。

(別紙5)

また、将来的には縦横連携が確立されると、子どもの次のライフステージに引き継がれるような支援システムの構築が期待される。

子育て支援情報誌については引き続き、全国の障害児保育実施施設等における園内研修会での資料としての使用が期待される。

(2) 自閉症スペクトラム障害児に対する療育指導と親・関係者への支援

自閉症スペクトラム児の発達・特性をきめ細かく専門職のチームが把握し、各々の発達段階に合わせた適切な指導計画を作成することで、児の苦手な社会性の獲得を進めていくことが期待される。また、家庭や関係機関への報告を常にするにより児への理解・対応についての参考となり、児と親・関係機関双方にプラスに働く事が期待される。

(3) ダウン症児に対する療育訓練

理学療法・作業療法・言語聴覚・臨床心理等の専門的な指導員による適切な指導助言を行うこと、また親や通園している保育・幼稚園等関係機関への療育指導の方法を助言することにより、ダウン症児に対する支援を組織的にできると予想され、今後のこどもの行動の共通理解と一貫性のある支援へと結びつくことが期待される。

(4) 超早期診断・療育及び親支援

発達障害を早期に発見し、専門家によるコミュニケーションの基礎を育てる療育を行うことで障害に対する不便さを少しでも緩和し、今後の生活に役立っていく事が期待される。

2. 全国難聴児を持つ親の会

(1) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

平成30年度より家族の都合により宿泊キャンプに参加できなかった難聴児も日帰りでの集団生活を体験できることができ、今後、難聴児にとって1日もしくは2日間という貴重な集団生活を体験し、今後の学校生活や社会性の向上が期待される。また、兄弟やボランティア等の健常児との生活を体験する事でお互いの存在を認め合い大きく成長する場になっていることにより、その子どもたちが成長し大人になった時に障害者差別が無い、より良い社会づくりが展開されることが期待される。

(2) 難聴児の親のための研修会

保護者のみならず、保護者を通じて学校の教員にも参加を呼び掛けたことにより、難聴児に対する共通した考え方で取り組められ、今後の難聴児の成長に大きな変化が現れる事が期待される。

3. 全国聾学校PTA連合会

(1) 聴覚障害生徒スポーツ振興

スポーツ面での生徒の努力とその成果は、学習面にも良い影響を与えており、

(別紙5)

ひいては社会性・協調性の伸長にも及んでいる。この事によりデフリンピックやデフユースへの選手参加という栄誉に浴する生徒も毎年出ている。これらが好材料となり就職面にも求人数・採用者数の増加につながる事が期待される。また、スポーツに対する関心・興味の高まりは、聾学校も例外ではなく生徒はもちろん保護者にも及んでおり、学校における指導も先輩が残した記録を目標に生徒の潜在能力の開発や、新たな能力形成を図るなどし、聴覚障害生徒の生活スタイルに大きなプラスにつながると期待される。

4. 全国盲学校PTA連合会

(1) 視覚障害生徒スポーツ振興

フロアバレーボールは、各学校によって活動している所も見られるが、全国の盲学校で行うためのルール等の規定が統一されてはいなかった為、指導者の研修会を含んだ本事業を行い、全国的なルール規程を確立し、フロアバレーが普及されていく事が予想される。また、生徒に対しては昨年度まで行っていた野球大会同様、大会を通して生徒の積極性や協調精神が培われ、視覚障害生徒の選手同士はもとよりボランティア・開催地域の人との交流経験をすることや、盲学校生徒の活動を社会にアピールすることで、視覚障害に対する社会の理解啓発が深まることが予想される。

5. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

(1) 障害児の親のための指導誌(紙)の発行

病弱特別支援学校に在籍する児童の保護者・病弱教育関係者が指導誌(紙)を通じ今日的な教育問題や国の動向等を明確にすることにより、視野を広め病弱教育の最新情報に関心を高めるなど、子どもたちが置かれている現状を理解することが期待される。また、各学校・地域の取り組みを紹介することにより、全国病弱虚弱教育学校PTA連合会と、その関係者との連携強化が図られることが予想される。

(2) 障害児と保護者の相互理解と将来への指針

病院に併設されている病弱校に通う児童に関しては、医療の管理下におかれ様々な生活規制を受けており、健常児が日頃行うことができる集団活動や経験が不足である。そのため本事業を行うことにより普段できない活動や家族などとの行動を共にすることで、心理的な安定・積極性・社会性の涵養、セルフケアへの向上を図ることが期待できる。

(3) 社会復帰のための社会適応講座の開催

本事業において、実践的な意欲と技術を獲得することで、社会参加への自覚と責任を持って意欲的な人生を歩んでいくことが予想される。

(別紙5)

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

<http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/publics/index/34/>

ア. (福) 全国心身障害児福祉財団

子育て支援情報誌No.22 A4判 24頁 4,000部

子育て支援情報誌No.23 A4判 24頁 4,000部

子育て支援情報誌No.24 A4判 24頁 4,000部

イ. 全国聾学校PTA連合会

全国聾学校陸上競技大会要綱(プログラム) A4判 114頁 850部

全国聾学校陸上競技大会ポスター B2判 300枚

全国聾学校卓球大会要綱(プログラム) A4判 78頁 300部

全国聾学校卓球大会ポスター B2判 300枚

ウ. 全国盲学校PTA連合会

全国盲学校フロアバレー大会要綱(プログラム) A4判 48頁 500部

全国盲学校フロアバレー大会ポスター A1判 2,000枚

エ. 全国病弱虚弱教育学校PTA連合会

会報No.40 A4判 16頁 3,000部

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

無し

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名: 社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

(シャカイフクシハウジン ゼンコクシンシンショウガイジフクシザイダン)

住所: 〒170-0005

東京都豊島区南大塚三丁目43番11号

代表者: 理事長 伍藤 忠春 (リジチョウ ゴトウ タダハル)

担当部署: 事務局

担当者名: 事務局次長 町野 忠史 (ジムキョクジチョウ マチノ タダシ)

電話番号: 03-5927-1280

F A X: 03-5927-1281

E - m a i l : gyoumubu@shougaiji-zaidan.or.jp

U R L : <http://www.shougaiji-zaidan.or.jp/>